

水道維持管理の一翼に

アクア・ピグ工法を公開

中里建設（佐野市、中里代表取締役）は、佐野市内でアクアピグを用いた特殊洗浄工法の施工現場を公開した。同市内では4例目で、県内ではこのほか、下野市や栃木市、真岡市などでも実績がある。現場の指揮にあたった、現在4代目の中里代表取締役は、「この工法は今後、水管の維持管理の一翼を担うものになるだろう。県内はもちろん、全国に広げていきたい」と意気込みを語った。



中里代表取締役

施工現場は、佐野市田之入町のDIP管（管径100ミリ）で管内の一部がサビで閉塞。洗浄距離は710メートル。給水車を配し、ピク圧送用ポンプなどを設置した後、給水栓を閉めて断水。本管バルブも閉め、止水を確認し、給水車からの通水テストを実施した。

その後、地下式消火栓に設置した発射装置に直

径160ミリのアクアピグを投入。約12分後に受取装置から管内に付着していたサビなどが排出された。その後、直徑170ミリ、180ミリのアクアピグを用いて同様に洗浄した。その後、管内をフローアピグを共同開発。表面に特殊なコーティング加工を施すことにより、相反する圧縮性・復元性をあわせもつ驚異的な品質特性を実現した。

洗浄後のアクアピグ



洗浄後のアクアピグ

中里代表取締役は、「管路をピントで調査診断し、現場条件に応じて設計・施工するため、水管の維持・管理に最も適した工法だ」と胸を張る。同社は高低差130メートルの洗浄実績があり、全国でも類を見ないといふ。

このアクアピグを用いた特殊洗浄工法（アクアピグ工法）の最大の特長は、口径75～250ミリが混在する上水道管内を一

括り、復旧作業を進め、復旧作業を進めた。同社は、軟質ウレタン発泡加工製品のトップメーカーであるアキレス（東京都新宿区）とアクアピグを共同開発。表面に特殊なコーティング加工を施すことにより、相反する圧縮性・復元性をあわせもつ驚異的な品質特性を実現した。

中里代表取締役は、「管路をピントで調査診断し、現場条件に応じて設計・施工するため、水管の維持・管理に最も適した工法だ」と胸を張る。同社は高低差130メートルの洗浄実績があり、全国でも類を見ないといふ。

同社の「水理事業の発展」は、社会資本整備事業の方向性を示す社会資本整備重点計画（第4次計画）を閣議決定した。集約・再編を含めた戦略的メンテナンスや、既存施設の有効活用に重点的に取り組む方針が盛り込まれている。

計画期間は27～32年。斜地崩壊危険個所17カ所の計25カ所。溪流内における土砂や流木の堆積状況、人家付近の斜面状況、砂防施設の被災状況などを調査した。

調査結果はA（緊急避難体制を確保することも実施する個所）、B（当面は警戒避難体制を強化するものとし、状況確認の上で、必要に応じ対応が必要）、C（特に変化はなく緊急度は低いが、降雨状況によっては注意を要する個所）。

斜地崩壊危険個所がBランク2カ所、Cランク15カ所の計17カ所となつた。今後の対応方針として、道路復旧工事や仮排水路の設置を緊急的に進めていく。あわせて、土石流センサーを設置するとともに、緊急警戒避難体制を構築する。

専門家の所見をみると、降雨により再度、土石流が発生する危険があるため、警戒避難体制の整備や応急的な対策工事が必要であると指摘。田茂沢に設置されていた砂防堰堤は、大量の土砂や流木を捕捉するなどの効果を発揮していた。

そのため、4つの重点

道路復旧工など着手へ

関東地方整備局は、緊急災害対策派遣隊（TE C FORCE）が日光市芹沢地区で実施している台風18号などによる豪雨被害の調査結果をまとめた。土石流危険渓流で、危険度ランクが最も高いAランクが6カ所であったことが判明した。調査結果を踏まえ、道路復旧工事や仮排水口の設置などを緊急的に進めていく。点検個所は、土石流危険渓流など8カ所、急傾斜個所は、土石流危険渓流など2カ所針だ。

斜地崩壊危険個所17カ所の計25カ所。溪流内における土砂や流木の堆積状況、人家付近の斜面状況、砂防施設の被災状況などを調査した。

調査結果はA（緊急避

難体制を確保することも

実施する個所）、B（当面

は警戒避難体制を強化す

るものとし、状況確認の

上で、必要に応じ対応が

必要）、C（特に変化はな

く緊急度は低いが、降雨

状況によっては注意を要

する個所）。

斜地崩壊危険個所がBランク2カ所、Cランク15カ所の計17カ所となつた。今後の対応方針として、道路復旧工事や仮排水路の設置を緊急的に進めていく。あわせて、土石流センサーを設置するとともに、緊急警戒避難体制を構築する。

専門家の所見をみると、

降雨により再度、土

石流が発生する危険があ

るため、警戒避難体制の

整備や応急的な対策工事

が必要であると指摘。田

茂沢に設置されていた砂

防堰堤は、大量の土砂や

流木を捕捉するなどの効

果を発揮していた。

そのため、4つの重点

もまた

くも2015
くも2015

家族連れなど2500人来場

木との触れ合い楽しむ

ともぎ木村フェスティバル実行委員会主催の「やまんちく村の『にぎわい広場』」で開催され

が20日、道の駅うつのみ

やまんちく村の『に

ぎわい広場』で開催され

た。当日は晴天にも恵ま

れ、家族連れなど約25

00人が来場。各種イベ